

## 再評価結果（平成22年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課  
担当課長名：深澤 淳志

<b>事業名</b> ：高知東部自動車道 一般国道55号 南国安芸道路	<b>事業区分</b> ：一般国道	<b>事業主体</b> ：国土交通省 四国地方整備局	
<b>起終点</b> ：自：高知県南国市物部 至：高知県安芸郡芸西村西分	<b>延長</b> ：12.5km		
<b>事業概要</b> ： 一般国道55号は、徳島市を起点に室戸阿南海岸国道公園を経て、高知市に至る延長約216kmの幹線道路であり、高知県、徳島県の産業経済を支える大動脈であるとともに、通勤等、日常生活に欠かせない生活道路としての役割を持つ重要な路線である。 南国安芸道路は、高規格幹線道路網を構成する一般国道の自動車専用道路である高知東部自動車道の一部であり、四国横断自動車道と一体的に機能することにより、陸・海・空の玄関口が効果的にネットワークする高速交通体系が形成され、県内外の広域的交通の高速性、安全性の確保に資するものである。			
H12年度事業化	H11年度都市計画決定	H14年度用地着手	H15年度工事着手
<b>全体事業費</b> ：約596億円		<b>事業進捗率</b> ：約33%	
<b>供用済延長</b> ：0.0km		<b>計画交通量</b> ：10,900～19,400台/日	
<b>費用対効果分析結果</b>	<b>B/C</b> ：(事業全体) 1.7 (残事業) 3.0	<b>総費用</b> ：(残事業)/(事業全体) 277/479億円 (事業費：258/461億円 維持管理費：19/19億円)	<b>総便益</b> ：(残事業)/(事業全体) 836/836億円 (走行時間短縮便益：698/698億円 走行経費減少便益：97/97億円 交通事故減少便益：41/41億円)
<b>基準年</b> ：平成21年			
<b>感度分析の結果</b> ：残事業について感度分析を実施 ・交通量変動：B/C= 3.3 (交通量+10%) B/C= 2.7 (交通量-10%) ・事業費変動：B/C= 2.8 (事業費+10%) B/C= 3.4 (事業費-10%) ・事業期間変動：B/C= 3.0 (事業期間+2年) B/C= 3.0 (事業期間-2年)			
<b>事業の効果等</b> ： 南国安芸道路は、四国8の字ネットワークの形成による広域的な交流、現道の渋滞緩和や安全性の向上、救急医療への支援や地域産業支援・観光アクセスの向上など重要な役割を担う。			
①円滑なモビリティの確保 ・現道等の渋滞損失時間の削減が見込まれる。【1,283千人・時間/年→29千人・時間/年 98%削減】 ・現道国道55号の混雑緩和によるバスの定時性の向上が期待される。 ・特急停車駅へのアクセス向上が見込まれる。【安芸市～後免駅、51分⇒38分】 ・高知龍馬空港へのアクセス向上が見込まれる。【安芸市～高知龍馬空港、44分⇒30分】			
②物流効率化の支援 ・高知県東部地域において農林水産品の流通の利便性が向上。【なす：全国シェア（高知県：14%（国内1位）平成19年度）、ゆず：全国シェア（高知県：49%（国内1位）平成18年度）（安芸市～園芸流通センター、68分⇒55分）】			
③国土・地域ネットワークの構築 ・中央地方生活圈～安芸地方生活圈を高規格幹線道路で連絡する。 ・高知県庁～安芸市役所を最短で連絡する。【78分⇒65分】 ・香南市主要地域から日常生活圏中心都市である高知市へのアクセス向上が期待される。【香南市⇒県庁：44分⇒41分、香南市赤岡町⇒県庁：45分⇒42分、香南市香我美町⇒県庁：55分⇒45分、香南市夜須町⇒県庁：54分⇒43分】			
④個性ある地域の形成 ・拠点開発プロジェクト、地域連携プロジェクト、大規模イベントを支援する。【室戸市：ディープシーワールドを核とした産業・観光、奈半利町・安芸市・芸西村：観光振興プロジェクト、北川村：ゆず振興プロジェクト、南国市：企業誘致・立地促進プロジェクト】 ・主要な観光地へのアクセス向上が期待される。【馬路温泉、阪神キャンプ地、モネの庭マルモッタン、室戸岬、ホエールウォッチング】			
⑤安全で安心できるくらしの確保 ・三次医療施設へのアクセス向上が見込まれる。 【高知医療センター：60分圏カバー人口（62.5万人⇒64.5万人）、安芸市～医療センター（66分⇒53分）】			
⑥災害への備え			

- ・災害時に香南市夜須町、芸西村付近における集落の孤立の解消が期待できる。  
【人口：香南市夜須町4,100人、芸西村4,200人】
- ・現国道55号は第1次緊急輸送路に指定されている。
- ・現国道55号は高知県東部地域唯一の幹線道路でありその代替路線を形成。

⑦地球環境の保全

- ・CO2排出量が約6.1千t/年(1.5%)削減【約396.6千t/年⇒約390.5千t/年】

⑧生活環境の改善・保全

- ・NOX排出量が約74.2t/年(約6割)削減【約122.6t/年⇒約48.4t/年】
- ・SPM排出量が約7.0t/年(約6割)削減【約11.7t/年⇒約4.7t/年】

関係する地方公共団体等の意見

地域から頂いた主な意見等：

- ・本事業の推進にあたっては、高知東部自動車道整備促進期成同盟会(高知東部自動車道沿線13市町村で構成)、四国の道を考える会(高知県東部、徳島県南部の地元住民代表者)、四国8の字ネットワーク整備促進四国東南部連盟(四国東南部の4期成同盟会)より積極的な整備促進要望を受けている。

高知県知事の意見：

- ・南国安芸道路をはじめとする高知東部自動車道は、四国8の字ネットワークを形成し地域間連携・物流機能の強化を図るうえで、重要な社会基盤であるとともに、日常の安全・安心な暮らしを支え、災害時には緊急輸送等の役割を担う「命の道」となることから、引き続き事業を継続し、早期全線供用を目指すべきである。

事業評価監視委員会の意見

「事業継続」とする事業者の判断は「妥当」である。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

平成20年7月に四国横断自動車道(高知自動車道)の川之江JCT～高知IC間の4車線化事業が全て完了。

事業の進捗状況、残事業の内容等

2～4工区は現在供用に向けて施工を全面展開で実施。用地取得率はH21年度9月末で約66%である。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

夜須IC(仮称)～芸西西IC(仮称)の区間は暫定2車線供用に向け、引き続き工事の推進を図る。

施設の構造や工法の変更等

インターチェンジの形状及び構造の変更等によりコスト縮減を図る。

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の事業効果及びコスト縮減等の内容、事業評価監視委員会における審議、知事等の意見を踏まえると、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。